千葉市教育委員会事務点検・評価について（令和6年度対象）

概要版

Ⅰ　教育委員会の事務の点検・評価制度の概要（報告書 P1・2）

1　対象年度　令和6年度
2　法令上の根拠　地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条
3　評価方法　教育委員会の権限に属する事項について、教育委員会が自らの事務の適切な執行について確認するとともに、点検・評価を行うに当たり、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図っている。

※評価委員　学校教育分野：小橋　暁子（こばし　さとこ）氏
千葉大学教育学部准教授　専門：造形教育学

生涯学習分野：岩崎　久美子（いわさき　くみこ）氏
放送大学教授（前国立教育政策研究所総括研究官）　専門：生涯学習政策

4　重点的に評価する事業［令和 6 年度の新規・拡充事業等から4つの事業を重点的に評価した］
※（　）は評価委員が視察・ヒアリング

学校教育分野
・スクールメディカルサポート事業（千草台東小学校）
・教頭マネジメント・サポーターの設置（真砂中学校）

生涯学習分野
・科学教育の推進（千葉市科学館）
・縄文文化などへの理解・関心の向上（千葉市埋蔵文化財調査センター）

Ⅱ　教育委員会の活動状況（報告書 P3・4）

1　教育委員会会議を 14 回開催し、43 件の議決を行った。

2　施設や行事の視察等を行い、事業の実施状況や、様々な課題について把握し、教育委員会会議における審議に生かした。
(1)学校行事への出席
千葉市小・中・特別支援学校児童生徒作品総合展覧会（科学部門）、小学校陸上大会　他
(2)各種イベントへの出席
未来の科学者育成プログラム、子ども議会、中学校生徒会交流会、科学フェスタ 2024　他
(3)教員等の研究会や研修会への出席
教職員教育研究発表会、研究指定校研究報告会、長期研修生（委託研修生）研究報告会
(4)その他
教科書展示会、教育功労者表彰式

3　広報・広聴活動、意見交換会等について
教育相談に関わる職員と教育委員との意見交換会

4　総合教育会議について
総合教育会議では、教育に関する大綱の策定や教育の条件整備など重点的に講ずべき施策、児童・生徒等の生命・身体の保護等緊急の場合に講ずべき措置について、地方公共団体の長と教育委員会で協議・調整を行う。
昨年度の総合教育会議は、「不登校対策」「ICT を活用した教育」「教育大綱における重点項目関連事業等の進捗状況」について議論を交わした。

Ⅲ　点検・評価の結果（報告書 P5～P113）

1　教育委員会による自己評価
学校教育分野は「第3次千葉市学校教育推進計画」に、生涯学習分野は「第6次千葉市生涯学習推進計画」にそれぞれ基づき、各施策を実施しているため、両計画の進捗状況を評価することにより、点検・評価を行った。また、令和6年度の新規・拡充事業等のうち4つの事業について、重点的に評価を行った。

（1）　全体の評価について

成果指標

	項目数	◎	○	△	×	―
学校教育分野	64	17	22	1	14	10
生涯学習分野	14	5	8	0	1	0

成果指標	
◎	中間目標値（R9）以上であるもの
○	中間目標値（R9）以下、現状値以上のもの
△	現状値と同水準にあるもの
×	現状値以下であるもの
―	達成率で評価できないもの

アクションプラン

	項目数	順調	遅れ	休止	中止
学校教育分野	86	86	0	0	0
生涯学習分野	85	81	2	2	0

アクションプラン	
順調	計画に対し、概ね計画どおり進捗しているもの
遅れ	計画に対し、事業進捗に遅れが出ているもの
休止	事業を休止し、今後再び実施する予定のもの
中止	事業を中止し、今後も実施しないもの

成果指標の達成状況が「◎」「○」となっている項目は、学校教育分野が約 6 割、生涯学習分野が約 9 割となっており、実施している取組が成果として表れている傾向が見られる。「△」「×」となっている項目は、目標達成に向け、現状分析や今後の方針をしっかりと検討していく。
両計画とも、アクションプランの進捗状況は「順調」の項目が多い。「遅れ」となっている項目については、その原因を分析し、見直しを図っていく。

（2）　重点的に評価する事業について

ア　スクールメディカルサポート事業
医療的ケアを必要とする児童生徒のうち、自己対応が難しい場合に対して、医療的ケアを行う看護師（スクールメディカルサポーター）を派遣している。令和6年度、小学校 13 名、中学校 1 名の児童生徒に 22 名の看護師が派遣された(令和7年度は、小学校 12 名、中学校 1 名の児童生徒に 21 名の看護師が派遣されている)。また、看護師の指導的立場の役割を担う、「スクールメディカルアドバイザー」を設置し現在 1 名が派遣されている。

イ　教頭マネジメント・サポーターの設置
教頭等の勤務負担軽減のために教頭マネジメント・サポーターを配置し、在校等時間の削減及びストレス反応の軽減を目指している。教頭が管理職として本来果たすべき役割である学校マネジメントに注力できるようにするために、学校全体の運営をサポートしている。令和 6 年度、退職学校事務職員 2 名を、中学校 2 校に配置（令和 7 年度は、退職学校事務職員 4 名を、中学校 4 校に配置）し、勤務管理事務の支援、施設管理、学校徴収金等の会計管理などにおいて支援を行っている。

ウ　科学教育の推進（千葉市科学館）
科学フェスタにおいては、2 日間で合計 1 万 6000 人以上もの来場があり、令和 5 年度より約 8000 人増加した。出展数も増えるなど、市民が主体的に科学イベントに関わることのできる機会の提供ができている。令和 7 年 1 月にリニューアルオープンしたプラネタリウムにおいては、機器を更新することにより、より多くの恒星をより鮮明に投影することが可能となっている。また、新たな上演プログラムも開発し、より美しい星空と大迫力の映像が楽しめるようになっている。

エ　縄文文化などへの理解・関心の向上（埋蔵文化財調査センター）
加曽利貝塚の現地説明会の開催等を通じて発掘・研究成果を市民に還元するとともに縄文時代に興味・関心をもってもらえる機会を提供している。また、市内の遺跡の発掘調査成果に基づき、郷土の歴史の理解を深める講座やワークショップを実施している。

２　評価委員による評価　　小橋委員の意見（報告書P114～115）

全体について（総括的所見）

・第３次千葉市学校教育推進計画について、報告書を元にその内容及び進捗状況を確認した。それぞれの項目において、分析の視点や対応策の検証をしつつ、場合によっては項目の適切さも検討しつつ、経過を確認していってほしい。

・学校の中での職務は多様で多くの種類と量がある。教育上の新しい課題は多々あるが、働き方改革とのバランスをとりながら、正規職員・非正規職員の別に関わらず個人に仕事が集中し過ぎないよう、職員の数、仕事内容の質や量、その時々の状況もふまえ精査を行い、各職員の生活の質の保障も含めて施策内容の検討や、実施をしてほしい。

スクールメディカルサポート事業

・令和４年からはスクールメディカルアドバイザー（SMA）の役職が置かれた。SMA（全体を統括）は、各看護師の状況を把握し、各児童生徒のケアが抜けることがないよう采配し、医療的ケアが終了後の児童生徒の対応や、各看護師の相談等も行っている。看護師配置だけではなく、SMA の存在も、スクールメディカルサポート事業において重要な役割を担っている。千葉市において、医療的ケアが必要な児童生徒に全て対応ができているという現在の状況をつくっているのはそのためといえるだろう。

・看護師が体調不良などにより勤務につけない際の、代替人員の余裕がない状況が見られた。要請があれば実働可能な待機看護師の確保も今後の課題だろう。それは児童生徒たちの安心感と共に、職員自身が安心して継続し勤務していくことにもつながるのではないだろうか。また、現在、スクールメディカルサポートの説明リーフレット作成の企画があると聞く。医療的ケアが必要な児童生徒本人、保護者、在籍する学校の職員、看護師等、広く関わる人たち自身の理解の一助ともなるだろう。是非、実施内容と共に、各所や人との連携等も分かるような資料を作成していただき、活用してほしい。

教頭マネジメント・サポーターの設置

・視察校ではサポーターが入ったことで、校内で教頭が対応する事案でも優先度合の高いことに重点的に対応できるようになったこと、また校内の教職員の事務が円滑に動くようになったこと等が分かった。教頭とサポーターの連携が円滑にいくような日常からのコミュニケーションや、双方が仕事をする場所の配置の工夫があることも確認された。現在、市ではサポーター配置の効果検証もしているところとも聞く。視察校ではよい効果が認められるといえるだろう。

・今回の視察での対話の中で、小学校と中学校が求める内容や、学校の所在する地域やその時々の学校の様子によっても、求める仕事内容の種類や重点事項も異なることが見えてきた。事務上のサポートが必要な場合もあれば、生徒指導に関するサポートが必要な場合もあるだろう。市では学校事情を聴取した上で、サポーター配置をしていることは確認できたが、今後も配置をする際には、引き続き学校の事情を把握し、その学校の状況に合う人材の配置をしてほしい。今後、拡充を考えていく場合は、柔軟な予算措置と配置計画を合わせて検討してほしい。

２　評価委員による評価　　岩崎委員の意見（報告書P116～117）

全体について（総括的所見）

・千葉市では、図書館、生涯学習センター、公民館などが整備されており、物理的環境は一定水準以上に充実していると考えられる。

・「第6次千葉市生涯学習推進計画」では、学びの活動と地域をつなぐコーディネーターとしての人材の重要性が指摘されている。公民館を身近な地域拠点と位置づけ、社会教育主事有資格者など専門的知見を持つ人材をより一層活用していくことが求められている。生涯学習センターや公民館に限らず、すべての施設において、専門性を備えた適切な人材の配置は、生涯学習施策を進める上での重要な鍵となる。

・今回視察した千葉市科学館および埋蔵文化財調査センターでは、学術的知見を有する専門家が常駐し、講座の企画や知識の普及活動に従事している。このことは、プログラムや展示の質を維持するうえで大いに評価される点である。

・人材の登用・育成については、引き続き「第6次千葉市生涯学習推進計画」に基づき、生涯学習環境整備の一環として、さらに推進されることが期待される。

科学教育の推進

・千葉市科学館において特筆すべきは、市が「科学都市戦略」に基づき、「子どもから大人まで、すべての市民が日常生活の中で科学・技術を身近に感じられる科学都市の創造」を理念に掲げ、科学館を知識の普及・啓発の拠点として位置づけている点である。このような戦略と計画が明示されていることにより、目指すべきビジョンが明確になり、それを実現する道筋が体系的に示される利点がある。

・科学館のプラネタリウムは、2025 年１月にリニューアルオープンし、天の川を構成する恒星の表示数が１千万個から１億個に増加し星の明るさや色彩の表現がより高精細化された。赤ちゃん連れの親子、児童、生徒、大人といった幅広い層を対象とした多様な企画が実施され、また、科学的内容に加え音楽やアロマを取り入れるなど世代を超えた関心を引いている。とりわけ、教員経験者による学習指導要領に沿ったコンテンツ作成や、学校の希望に合わせた投影は重要な取組みである。児童・生徒が通う学校の校庭の全方位風景をプラネタリウムに投影し、太陽や月、星空を観察できる「学校スカイライン」などは、地域に根ざした天体学習の優れた実践例であり、児童・生徒が実生活に近い形で学べる真正の教材と言える。

縄文文化などへの理解・関心の向上

・埋蔵文化財調査センターでは、遺跡の所在確認や発掘調査といった地道な研究活動を行っている。大型バス用駐車場を確保できない立地上の制約を補完するため、小学校や公民館に出向き、「土器触・講座」「火起こし」「勾玉づくり」「組紐作り」などの体験学習を出前授業として提供していることはセンターの研究活動を広く地域に還元する有意義な取り組みである。特に小学校社会科の縄文文化単元と連携し、多くの学校からの依頼を受けて出前学習を実施しており、身近な教材を通じて縄文文化への理解を深める機会を広く提供している点は高く評価できる。

３　評価委員の前年度の意見に対する対応等（報告書 P118～122）

前年度の事務点検・評価において、評価委員よりいただいた意見に対する対応等を示している。